



神戸こども初期急病センター



2011年3月受診者数：2817人

訴え

(カッコ内は、その症状を主な訴えとして来院した患者数)

1. 発熱 : 1836人 (1484人)
2. 咳 : 947人 (142人)
3. 嘔吐 : 810人 (441人)
4. 鼻汁 : 697人 (12人)
5. 下痢 : 503人 (89人)

疾患頻度

1. 急性上気道炎・咽頭炎 : 909人
2. 感染性胃腸炎 : 748人
3. インフルエンザ : 357人
4. 気管支炎・肺炎 : 130人
5. 気管支喘息 : 93人



今月のワンポイント!



3月は初旬に寒い日が続きましたが、下旬にはようやく暖かい日もみられるようになりました。今月は2817人の患者さんが受診され、発熱を主訴に来られた方が1484人と最多でした。春休みということもあるためかインフルエンザは徐々に患者数の減少がみられました。簡易検査では、インフルエンザA陽性は164人、インフルエンザB陽性が156人であり、先月に比べ明らかにB型の割合が増えています。兵庫県感染症センターの情報によると、3月以降はA型では新型インフルエンザよりも香港A型が増加しているようです。そのためかインフルエンザA型に2度かかってしまってしまう方もおられました。

今月特に気になったのは、胃腸風邪である急性胃腸炎(いわゆるノロウイルスやロタウイルス感染症の吐き下し)の患者さんが急増したことです。小さいお子さんで初めて嘔吐を経験され、不安で夜間受診されるケースがよくみられました。乳幼児の嘔吐が続いた場合、あわててお茶やお水やナトリウムの少ないスポーツドリンクなどの、ナトリウム濃度の低い飲料水を大量にのませると、かえって低ナトリウム血症となり低張性脱水をひきおこし危険です。嘔吐、下痢の際はミルクやヨーグルトなどの乳製品や、固形物の接種は避け、少量ずつ、塩分の入ったスープや、点滴の代わりとなりお子様の負担が軽くなる経口補水飲料水をあげるとよいでしょう。胃腸炎は感染性が高いため、吐物や下痢便の処理は手洗いをしっかり行い、衣類やタオルなどは塩素系の消毒薬を使いウイルスを死滅させ、感染の拡大に注意しましょう。

